

## アワーミュージアム

第34号 2007年6月30日発行



## 丁石のある遍路道 ～五番地藏寺から四番大日寺へ～ 滝 よし子 (友の会会員)

丁石(町石)とは、「寺院の参道に一丁ごとに建てられた標石。五輪塔形式のものが多い。距離数、施主、建立年月日などを彫る。『広辞苑』」とあり、鎌倉時代から建立されたという。県内各地の社寺への参道に丁石のあるところが多い。なかでも阿南市加茂町から二十一番太龍寺への旧表参道にある丁石は県内最古で、徳島県の指定文化財にもなっている。一宿寺の貞治6(1367)年に建立された花崗岩の丁石41丁は立派なものである。

板野町の旧撫養街道(川北本道)から五番地藏寺を経た四番大日寺への旧遍路道には、16基の丁石が長い年月風雨に耐え、ひっそりと佇んでいる。五輪塔形式の立派なものでなく、舟形の一見遍路墓と見間違えやすい。砂岩のため風化が進み、中には欠損のあるものや亀裂の入った崩壊寸前のものも見られる。

もともと、この旧遍路道は、藩政時代に黒谷村(板野町黒谷)への生活道であった。『阿波国海陸道度之帳(明暦3年)』に、「板西郡黒谷越 川北本道ヨリ境目迄式拾四丁 讃州川股村へ出ル 牛馬通」とあり、本道である大坂越の讃岐街道の脇街道的な存在であった。昭和30年頃までは黒谷越をする人もいたが、今は皆無というより通行できない。

現在、四番大日寺と五番地藏寺の間は、徳島自動車道の開通に伴い観光バス道路ができて、一部の旧遍路道は「歩き遍路さん」にも盲点となっている。遍路道には、丁石のほかに道標や石造物も多く、とりわけ板野町最古と思われる享保7(1722)年建立

の道標「右ちぞうじみち・左こんせんじみち」は、江戸時代の遍路日記に書き留められている。この道標建立から35年後の宝暦7(1757)年に丁石は建てられた。以後、明和から安永年間にかけて大日寺では三十三観音像が、また、五番地藏寺には五百羅漢像などが建立され、仏像造立のラッシュ時期となった。

ところで、丁石建立の起点は、五番地藏寺山門から南へ200m程で突き当たる旧撫養街道の三叉路に立つ地藏尊である(図1)。台石に「五番地藏寺宝暦六丙子天七月廿四日 願主尾州名古屋住義暁」の銘文が刻まれている。そして、翌年の宝暦7年4月に丁石は建てられた。願主は義暁で、他に施主の名前も見られる。四番大日寺と五番地藏寺間の道程は、昔から十八丁と言われ、丁石も17基か18基建



図1 丁石の起点となった地藏尊。右の道標は中務茂兵衛と照蓮のもの。地藏尊の後ろには、観応3(1352)年の板碑がある。2007年5月28日撮影。

てられたと思われるが、現存しているのは二丁目から十五丁目までの16基である。このうち八丁目2基と十丁目2基は弘化と明治期のもので、願主義暁のものではない。当初の丁石は、破損か埋没などの理由で代わりに建てられたものである。一丁目の丁石も行方不明である。時の流れの中で霧消するのは仕方のないことかも知れない。

実は今年の元旦、地蔵寺へ初詣に行った折、何の変哲もない参道の石畳に敷かれた青石の板碑を発見したのである。お城の築城の際、魔除けに五輪塔の一部を逆にして石垣に積むことは、よくある例である。それにしても興味は尽きない。一丁目の丁石もあるいはとの思いで、後日改めて確認に出かけた。すると、板碑の近くで丁石の台石とほぼ同形の石を見つけた。さらに付近を探していると、運悪くお巡りさんと2、3人の通行人がいたので、この日は断念した。再度チャレンジしたいと思っている。

それにしても、丁石建立の由来には、その時代背景が深く関わっているような気がする。宝暦6・7年には、麻植郡から名東・名西・板野四郡にかけて五社宮騒動が起きた。加えて毎年のように来襲する洪水等による被害も甚大であった。何か造立者の願いが秘められているのだろう。



図2 積囲いの中の五丁目の中の丁石。2007年5月28日撮影



図3 路傍に立つ七丁目の丁石。2007年5月28日撮影。



図4 十五丁目の丁石。2007年5月28日撮影。



図5 2001年に道路整備で移転された道標（右から「享保7年の道標」「宝暦7年の道標」「十一丁目の丁石」「文政12年の万人講牛馬安全碑」。2007年5月28日撮影。

## 吉野川を歩こう

やまし たけひこ  
山地 武彦 (特別寄稿)

「脇町を歩こう (04年4月)」・「池田を歩こう (07年3月)」などの行事が、博物館の普及行事にありました。歩くことの好きな博物館友の会の皆さん、今度は吉野川の水の上を歩いてみませんか。

吉野川には、現在46の架橋があります。内訳は、まずJRの鉄道橋が4橋。そして、JHの高速道路が2橋あります。しかし、この6橋は歩けません。残りの40橋の内訳は潜水橋が8橋、永久拔水橋が32橋で、これらは自由に往来することができます。

橋は材料によって、石橋・鉄筋コンクリート橋・鋼橋に大別されます。また、工法を分類すると、桁橋・トラス橋・アーチ橋・ラーメン橋・吊り橋、斜張橋があります。吉野川には橋桁だけの桁橋はありませんが、その他の5工法で架橋されたものが揃っており、『橋の博物館』とも言えます。橋を歩く、即ち水の上を歩きながら、目に映る自然の景色や橋周辺の歴史に思いを馳せてみませんか。お薦めの橋2つを紹介します。

その1 吉野川最古の橋『三好橋』。この橋は、昭和2(1927)年に吉野川の橋として最初に完成しました。吊り橋の美しい橋でした。しかし、平成元(1989)年に修理された際、アーチ橋に改築されました。右岸の橋の入口に、架橋当時の写真と使用されていたワイヤーの一部が展示されています。JR三縄駅のすぐ近くにありす(図1)。



図1 改築された三好橋

その2 吉野川最新の橋『角の浦大橋』。この橋は、平成16(2004)年に完成しました。2連のアーチが天空に広がる開放感のある橋です。公共交通機関の便が少し悪く、自動車での出かけがよいとあります。旧三野町と旧三加茂町を結ぶ橋です(図2)。

四季折々、風<sup>おりおり</sup>に吹かれて「吉野川の橋めぐり」もどうでしょうか。ぜひ、お薦めします。

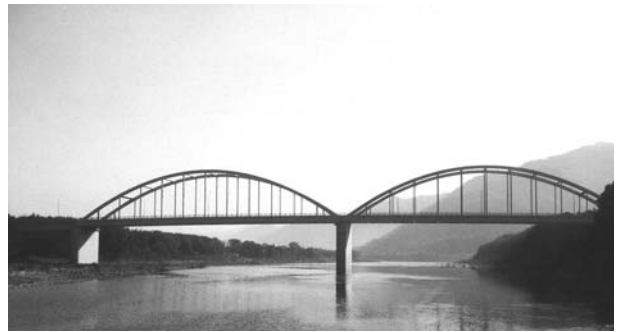


図2 吉野川に架かる一番新しい橋。旧三野町と旧三加茂町を結ぶ。平成16年11月23日に開通した角の浦大橋。

※ 図1・2は国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所「ふる〜ぶ」編集部提供

## 友の会行事報告

### 竹とんぼ・竹細工をつくろう

◎日 時 2月25日(日) 13:00~16:00

◎場 所 徳島県立博物館 実習室・ベランダ(3階)

◎日 程

13:00 開会(進行の概略説明)

13:20 製作開始

15:40 製作終了 片付け

16:00 閉会

◎行事担当者 大杉洋子・関真由子・南部洋子(友の会役員)

◎行事の講師 山地武彦・吉見勝之・伊勢ひとみ(友の会会員)  
井坂敏之・伊勢敏司・長江順次・宮尾正男

◎参加者 36名

◎概 要

7名の講師の支援をいただき、参加者は竹とんぼの製作を通して、子どもの頃の懐かしいひとときの夢を見たり、新しい発見をすることができた。また、竹笛・竹馬などの玩具や花器などの竹細工にも、時間的に余裕のある参加者はチャレンジした。

#### 参加者の声

◎大杉 いずみ(友の会会員)

久しぶりに竹とんぼで遊びました。童心に返り、楽しかったです。講師の方々が持参してくださった竹細工の素晴らしさに驚きながら、私は手作り竹とんぼに四苦八苦……。子どもたちにとっても良い経験になりました。その後、自作の竹とんぼを家でいろいろと改造しています。

## ○大杉 さくら（友の会会員）

たけとんぼをつくるのたのしかったです。たけとんぼをとばすと、きれいにとばせました。たのしかったです。たけとんぼとばすのじょうずでしたか？

## ○川田 浩司（友の会会員）

先日は竹とんぼ・竹細工の行事に参加させていただき、大いに喜んでいる次第です。今、学校では、ナイフのような危険物を持たせない教育が行われているようです。これでは将来、大人になった時に困るのではないかと心配しています。やはり、大人がナタやノコギリ、ナイフ等の道具については、正しい使い方を教えてやるべきだと思います。今回の行事は、その意味でも子どもたちを教育する絶好のチャンスであったと思います。多くの指導者や大人がいたので、誰一人として怪我をする子どももなく、スムーズに行事は進みました。改めて教育は、学校教育と社会教育の両輪があって初めてできるものであることを実感しました。

老人人口がさらに増加するこれからの時代です。友の会においても、生涯教育の視点から行事を考えていただきたいと思います。現在は社会教育が貧弱なので、友の会が先陣を切って実践してくれることを熱望しています。今回の行事で、竹とんぼと2種類の竹笛を製作して楽しい時間を過ごせたことに感謝しています。

## ○小松 研一（友の会会員）

簡単に作る事ができると思っていた竹とんぼも、普段使い慣れていないナイフを使うと苦労しました。子どもが参加していなかったので、自由に製作させてもらい、おかげで何とか飛ばすことができました。製作のための時間が3時間ほどあったので、次回は大人ができる竹細工（例えば竹かごや竹人形？）等も、同時に別のコーナーで計画していただければと思います。

## ○佐竹 敬子（友の会会員）

楽しかったです。子どもを母に任せて、夢中になってしまいました。子どもは小学校3年生なの

で、小さい子どもたちのグループには入らず、始めから終わりまで講師の先生に教わりながら頑張っていました。ノコギリやナタ、ナイフ、電動ドリルと、今まで見たことがあるだけの物、見たこともない物を自分の手で使わせてもらい、貴重な体験をすることができました。

## ○佐竹 信祐（友の会会員）

竹は、思ったより割れやすい。でも、ナタが重い。竹って、いろいろ役に立つんだなと思った。電動ドリルを使ったら、竹がはやくほれた。竹の笛はかっこよくておもしろい。また、参加したい。

## ○住友 セツ子（友の会会員）

久しぶりに幼少に返り、子どもたちとともに真剣になりました。小3の孫娘は身体のみ大きくて、最初はなかなか手がかたがずに困っていましたが、講師の先生のご指導のもと、やっと竹とんぼの羽根を曲げるところで興味津々になってきた様子でした。

今、姉弟で竹笛や竹筒の馬？の音に興じています。3歳児の孫は、時折思い出すのか、「また、竹とんぼに行こうね。」と言います。準備、設営、本当にたいへんだと存じます。お世話になりました。

## ○住友 靖江（友の会会員）

「竹とんぼ・竹細工をつくろう」に参加して、とても楽しい一日になりました。一生けんめい先生に教わり、竹とんぼが飛んだ時は、本当にうれしかったです。また、お友達と竹筒の馬で遊んだ時には、太いつつと細いつつの音がちがうのおどろきました。次の機会も参加したいと思います。



竹とんぼ・竹細工をつくろう1

## ○松家 京子 (友の会会員)

孫と参加させていただきました。5歳の孫は友の会の行事に参加するのは初めてでしたので、「何時に帰るん?」と不安がっていましたが、自分の竹とんぼができて外で何度も飛ばすうちに、だんだんと要領が分かってきたのか嬉しそうでした。年少児のために、ほとんど形の仕上がった竹とんぼを準備してくださっていたので、紙ヤスリで角をなめらかにすることと、蠟燭にかざして竹とんぼにねじれをつくるのが孫にとっての物づくりでした。幼稚園以外の子どもと一緒に行動することは、孫にとって貴重な体験となりました。

私にとりまして、久しぶりの竹とんぼでした。子どもの頃、父親に作ってもらった記憶がよみがえり、懐かしかったです。孫が途中で飽きてしまい、片付けもせず早めに帰らせてもらい、申し訳ありませんでした。

## ○山地 武彦 (友の会会員)

「竹とんぼづくり」に指南役で参加しました。友の会の活動で、博物館の活性化に寄与できることを、知っていただきたいと思います。そして、皆さんが持っているそれぞれの特技や才能を生かして、リーダーとして参加して下さるよう希望します。

博物館には各分野に専門の学芸員がいます。相談にも乗ってくれます。友の会の会員の皆さん、次はあなたの斬新なアイデアが生かせる友の会教室の先生になってみませんか?



竹とんぼ・竹細工をつくろう2

## 友の会行事報告

第3回 八万町の昔を探ろう  
～金剛光寺跡より長谷へ～

◎日 時 3月18日(日) 9:00～12:30

◎場 所 徳島市八万町

◎日 程

9:00 文化の森噴水前集合・出発

金剛光寺跡(弁才天跡・閻伽池跡など)

→カケの水神さん→地神塔→四王子神社

→竹宮神社→辻のお地藏さん

12:30 文化の森帰着・解散

◎行事担当者 関 真由子(友の会役員)

◎参加者 22名

◎概 要

一昨年より開始した『八万町の昔を探ろう』も回を重ねて今回で3回目となった。「夷山から八幡神社への道」・「晩秋の法花谷探訪」に続く今回は、平安時代の寺院跡と伝えられている寺山から遍路道地藏越に続く長谷への道を歩いた。

伝説の残る謎に満ちた寺院跡、谷に鎮まるお社や路傍のお地藏様など遙か昔に心を寄せながら、思いがけない新しい出会いが待っているかも知れないという期待を胸に、信仰の道を通った。

## 参加者の声

## ○伊勢 ひとみ (友の会会員)

風が少し冷たかったけど、春の風や陽光を肌に感じながら、身近に信仰の道を辿ることができました。行く先々での説明も丁寧にくださり、嬉しい半日でした。ただ、金剛光寺跡が手入れもされず、埋もれている様子には、少し心が痛みました。次回もまた参加させていただきたく、よろしく願い致します。

## ○川上 左恵子 (友の会会員)

寺山や長谷の地名はよく聞いていましたが、こんな近くに由緒ある寺や神社が残っているのに驚きました。住民の生活に何らかの関係を持ち、存続している存在が羨ましく思えます。未だに地元のことが何にも分からぬままに過ごしています。また機会があれば参加して、少しでも知りたいと思います。お世話になりました。

## ○日下 静代 (友の会会員)

待ちに待った八万町長谷を辿るコースに参加させ

ていただきました。ふる里の山に春の雪を遠目にし  
て金剛光寺跡に残る<sup>ひやくといし</sup>百度石、<sup>ちようずぼち</sup>板碑、<sup>ちようずぼち</sup>手水鉢等々・・・  
<sup>なご</sup>敷の中に案内された時の胸騒ぎを忘れられません。  
園瀬川に沿うカケの水神さん、辻のお地藏様に心を  
奪われ、信仰の道を辿ることができました。次回も  
楽しみにしています。

○<sup>くほ</sup>久保 <sup>みどり</sup>翠 (友の会会員)

今日は快晴でしたが、2月に戻ったような寒い一  
日でした。参加者全員で学芸員さんの説明を聞きま  
した。説明を聞いて昔の八万村の様子に驚きました  
が、今日はこの行事に参加して、何か得をしたよう  
な気持ちになりました。それにしても、打ち捨てら  
れたような草むらの中の遺跡を見て、何故もっと保  
護することができないのかと残念に思いました。心  
ある人たちのボランティアで保護できるのではない  
かと思います。地元でありながら、知らない人が多  
いのではないのでしょうか。このような歴史ウォーク  
を増やしてください。

○<sup>しま</sup>島 <sup>みよこ</sup>美代子 (友の会会員)

<sup>ほお</sup>頬がこわばる風の中のスタートでしたが、歴史街  
道の野辺には、タンポポやツクシ、レンゲがけなげ  
にも顔をのぞかせ、歩むごとに春の温もりを覚えま  
した。八万町の近くに住みながらも、八万の歴史を  
ほとんど知りませんでした。カラー写真掲載の資料  
はとても解りやすく、図解、地図・・・と素晴らしい  
テキストでした。先生方のご説明は事細かに語り  
かけてくださり、要所ごとに歳月の流れを汲み取る  
ことができました。桜が咲きましたら、いただきま



八万町の昔を探ろう・金剛光寺跡付近

した資料を片手に、もう一度、二度と巡っていかう  
と思います。

○<sup>すみとも</sup>住友 <sup>せつこ</sup>セツ子 (友の会会員)

朝の引き締まる寒さも、日差しの中へ一歩足を踏  
み出せば、たちまち身体は目的地に。市内に住居を  
構え幾年となりますのに、未だに解らないことだら  
けです。でも、丁寧<sup>めい</sup>に書かれている資料のおかげで  
勉強になりました。路<sup>みち</sup>の<sup>べ</sup>辺に置かれる石塊を今まで  
見過ごしていたことを、お恥ずかしい次第だと思い  
ました。

<sup>うら</sup>麗<sup>ら</sup>けし 馬頭観音 路の辺に

セツ子

○<sup>まつか</sup>松家 <sup>きょうこ</sup>京子 (友の会会員)

何度も雨天のために延期になり、今回も少し心配  
でしたが、良い天候だったのでほっとしました。近  
くに住んでいるにも関わらず、金剛光寺という<sup>はいじ</sup>廃寺  
の場所とか大きさなど全く知らなかったので、  
<sup>しょうとく</sup>正徳元(1711)年と<sup>めい</sup>正徳5年の銘の手水鉢とか、  
<sup>ぶんきゅう</sup>文久3(1863)年の百度石などが今なおあるというこ  
とが一番の驚きでした。また、ここは今は竹林とな  
っていて、昼間でも暗く<sup>さび</sup>淋しいところなので、一人  
では怖くて行けそうにもなく、今回連れて行って  
いただいて良かったです。今回も詳しい資料がありが  
たかったです。楽しい半日でした。次回もまた参加  
したいと思っています。



八万町の昔を探ろう・長谷のお地藏さん付近

## 平成 19 年度総会の報告

4月22日(日)午後1時より、博物館3階の講座室において平成19年度友の会総会が開催され、18年度の事業報告と決算報告、並びに19年度の事業計画と予算案についての審議が行われました。

### ●平成19年度友の会行事(予定)

1. 新緑の高丸山を歩こう  
実施日：5月20日(日)  
場 所：勝浦郡上勝町 高丸山
2. 海藻採集会「海藻を集めよう」  
実施日：6月3日(日)  
場 所：鳴門市 竜宮の磯
3. 淡路日帰り研修の旅  
実施日：6月17日(日)  
場 所：兵庫県南あわじ市・洲本市 他
4. 地引き網を引こう  
実施日：7月22日(日)  
場 所：阿南市 北の脇海水浴場
5. 草花・昆虫の観察会  
日時・場所は未定
6. 草で虫をつくろう  
実施日：9月16日(日)  
場 所：徳島県立博物館 実習室
7. 南予一泊研修の旅  
実施日：9月29日(土)～30日(日)  
場 所：愛媛県内子町・宇和島市 他
8. 八万町の昔を探ろう  
実施日：11月18日(日)  
場 所：徳島市八万町
9. 鳥居龍蔵・モラエスゆかりの地を歩こう  
実施日：12月24日(月)  
場 所：徳島市東船場町・寺町・伊賀町
10. 海藻おしぼをつくろう  
実施日：1月13日(日)、20日(日)  
場 所：徳島県立博物館 実習室

### 11. こんにやくをつくろう

実施日：2月24日(日)

場 所：徳島県立博物館 実習室

### ●平成19年度友の会事業計画

1. 広報活動  
博物館の広報印刷物を提供する。
2. 図録の印刷および販売  
(1) 企画展図録「ミネラルズ」を印刷し、販売する。  
(2) 企画展関連「世界の昆虫図鑑」・「発掘された日本列島'2007」を委託販売する。
3. 友の会会報の原稿募集および発行  
会報「アワーミュージアム」No.34～36を発行し、配布する。
4. 会員の募集  
新しい会員募集案内を作成し、新会員を獲得する。配布先についても新規開拓をしていく。
5. 友の会グッズの販売  
A4版クリアフォルダ2種(人文・自然)を販売する。

### ●平成19年度友の会役員

会 長 石原 侑

副会長 和田賢次・関真由子・大原賢二(博物館館長)

幹 事 多田精介・大杉洋子・澤祥二郎・南部洋子  
行成正昭・森本嘉訓

監 査 石尾和仁・川下浩子

### ●平成18年度決算報告および19年度予算

#### 【収入】

項 目	18年度予算	18年度決算	19年度予算
会 費	495,000	459,000	455,000
行事参加負担金	920,000	1,067,600	1,206,000
図録等売上金	650,000	978,790	600,000
グッズ売上金	30,000	5,715	30,000
雑収入	14,571	19,722	18,572
事務局整備積立金より	241,500	141,052	—
前年度繰越金	218,429	218,429	180,428
合 計	2,569,500	2,890,308	2,490,000

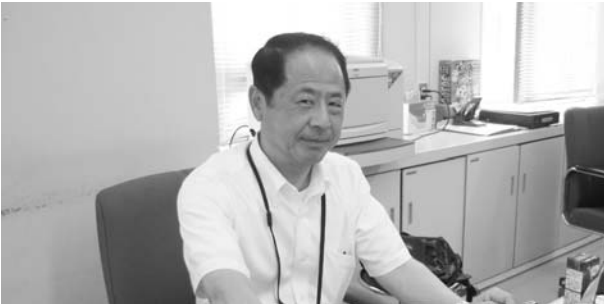
#### 【支出】

項 目	18年度予算	18年度決算	19年度予算
図録印刷費等	511,000	580,800	383,000
徳島の自然と歴史ガイド	—	141,052	—
グッズ開発費	241,500	245,700	—
館利用促進費・MS買い物補填費	75,000	133,093	100,000
行事費	1,170,000	1,295,959	1,320,000
通信費	400,000	173,580	400,000
事務局費	40,000	23,920	30,000
行事参加者保険料	5,000	29,136	30,000
総合案内積立金	50,000	44,640	50,000
報償費	30,000	42,000	20,000
予備費	47,000	—	157,000
繰越金	—	180,428	—
合 計	2,569,500	2,890,308	2,490,000

## 新スタッフ紹介

### ● <sup>はやし まさあき</sup>林 正明 (博物館副館長・普及課長)

平成5, 6年の2年間, 博物館でお世話になって以来, 13年ぶりに再び博物館でお世話になることになりました。思い出しますと, 日本ではバブル崩壊, 阪神淡路大震災, オウム事件などが起き, 世が騒然となる一方, 徳島県では48国体が開かれ, 天皇陛下の博物館ご視察などもありました。その後, 社会・経済状況は大きく変わり, 博物館を取り巻く状況も厳しくなりましたが, 緑豊かな素晴らしい環境や人の心の温かさ, 思いやりはあの頃と同じであり, 博物館で仕事ができる喜びを感じています。



友の会は, 会員の皆様のご支援やご協力により, 自然や文化に親しむさまざまな活動を通じて会員相互の交流が図られ, 今年度の会員数も350名を超えています。今後, 皆様の活動のお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### ● <sup>とよさき いさお</sup>豊崎 勲 (普及課主査兼係長)

このたび, 県南の美波町日和佐小学校より転任してまいりました。学校現場とは異なる勤務態様にとまどうこともあります, 博物館の展示には興味をひかれるものもあり, 楽しく普及行事に取り組んでいきたいと思っています。

また, たくさんの方々が自然や歴史・文化に関心を持ち, 活動している友の会の事務局として責務の重大さも感じています。

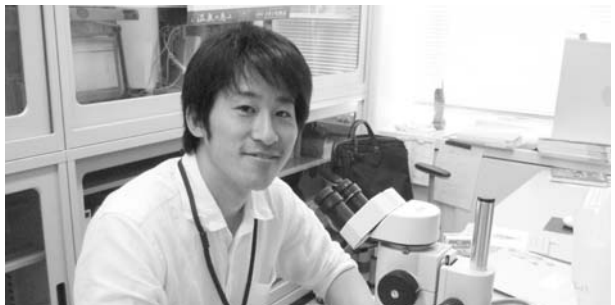


微力ではありますが, 事務局の一員として務めさせていただきますので, どうぞよろしくお願いします。

### ● <sup>やまだ かずたか</sup>山田 量崇 (自然課学芸員・無脊椎動物担当)

生まれは岐阜。その後, 大学・大学院時代を奈良大阪で過ごし, 4月から徳島県立博物館で勤務することになりました。どことなく故郷の岐阜と同じ香りのするこの町で, とりわけ不安もなく生活しています。大学院時代は昆虫学を学び, とくに「カメムシ」を対象に分類学を専攻していました。具体的には, 世の中に知られていない名も無きカメムシたちに名前を付けるような研究です。カメムシと聞いただけで, 周りの皆さんは必ずと言っていいほど嫌な顔をされます。私も最初は悪いイメージしかありませんでしたが, 今ではすっかりカメムシたちに心を奪われてしまっています。

まだまだ博物館での諸業務には慣れず, 失敗も多々ありますが, 皆さんの優しいお心遣いに感謝しつつ, 日々精進しています。自然の豊かなこの町には, 都会に慣れ親しんでしまった私にとって, 魅力を感じる場所がたくさんあります。友の会の会員の皆さんとも早く打ち解け, 行事などを通して活発な会にしていければと思っています。



## 第34号

2007年6月30日発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197  
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp

No.34

June  
2007  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

